



MODEL : OM-45S

FLUID MEISTER II

フルードマイスターII

取扱説明書



- 液面が下がると電動ポンプで自動補給、上がると液面センサーで自動停止します！
- 移動式マグネットフィッティング付きの供給ノズルは、フレキシブルパイプにより車種を問わずにセット可能！



適用

軽自動車～小型トラックのブレーキフルード補給

仕様

- 電源：DC6V（単1乾電池4個使用 ※別売）
- センサー部：液面感知センサー
- ポンプ：DCモーター ピストンポンプ
- 吐出量：約400cc/min（アルカリ乾電池新品時）
- タンク容量：5リットル
- 重量：約2.5kg（乾電池4個含む）
- 供給ホース長：2m
- サイズ：220mm × 170mm × 160mm

※詳しい使用前の準備方法と使用方法は次ページをご覧ください。



◆◆◆◆ 使用方法・取扱上の注意事項 ◆◆◆◆

- <！> ブレーキフルード以外の液体使用や、他の用途での使用はしないでください。電池交換、フルード補給以外の本体内部分解、改造は厳禁です。
- <！> 本工具は、氷点下以下での使用はご遠慮ください。
- <！> 本タンクは、完全密閉されていませんので、フルードの保管には適しません。ゆすったり、倒れると、フルードが漏れますのでご注意ください。
- <！> センサー部は特に汚れを嫌います、誤作動の原因になりますので、適時にきれいなブレーキフルードですすぐなどのクリーニングをしてください。
- <！> タンク内のフィルターは、適時にエアアなどでクリーニングしてください。汚れのひどい場合は、補修部品と交換してください。
- <！> 乾電池は徐々に電圧が弱まります。供給が追いつかなくなったら交換してください。早めの交換をおすすめします。

この度は当社製品の(型式:OM-45S) お買い上げ誠にありがとうございます。本ツールは、軽自動車から小型トラック程度のブレーキを主に対象とした、エア抜き(フルード交換)作業用の電動ピストンポンプ式フルード自動供給器です。

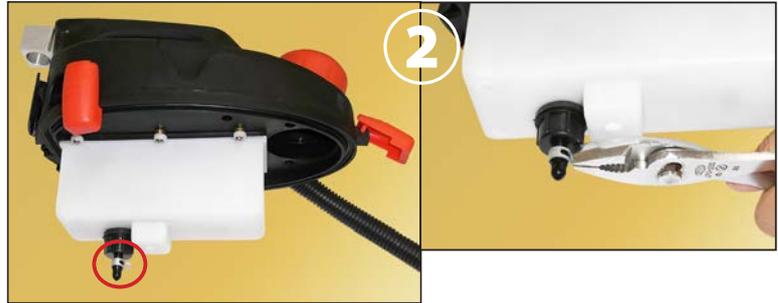
正しく、安全にご使用いただくため、作業前に必ず本取扱説明書をお読み頂き、内容を十分にご理解いただいた上で、注意事項を遵守してご使用ください。また、各作業車両毎にメーカーの整備要領書を用意し、注意事項、基準値、作業ポイントなどは、メーカーの指示に従って作業を行ってください。

<<< 使用前の準備方法 >>>

※洗浄用のブレーキフルードが多少たれますので作業時にはご注意ください。



① 本体タンク3カ所に有る、タンク固定フックを外側に起こして取り外してください。



② 本体上部タンクの下に取り付けてあるホースバンドとディップモールをお手持ちの工具で(プライヤー等)取り外してください。
※取り外したホースバンドは使用しますので紛失に注意してください。



③ ②で取り外したホースバンドを付属のホースに(フィルター付き)取り付けてください。



④ ③でホースバンド取り付けした付属のホース(フィルター付き)とホースバンドを上記画像の所へ確実に取り付けてください。
※取り付け時にホースを傷つけない様に十分注意してください。
ホースに傷が付くと、そこから空気が入りブレーキオイルを吸引しなくなります。



⑤ 左記の様に付属ホースが(フィルター付き)しっかり取り付けられているか確認して本体下部タンクと合わせて、タンク固定フック3カ所を確実に取り付けてください。

※フィルターの汚れた場合はホースから取り外して吐出側から適時にエアなどでクリーニングしてください。
(フィルターには向きがありますので注意してください。)
また汚れがひどい場合は、補修部品と交換してください。

<<< 使用方法 >>>

- ① 作業に必要なだけの、新しいブレーキフルードをタンクに入れます。
- ② フルード交換の場合は、スポットなどでリザーバータンク内の古いブレーキフルードを吸い取ります。
- ③ 車両の金属部分に傷をつけないようにマグネットを取り付け、フレキシブルパイプを調整しノズル先端部をリザーバータンク内に入れます。ノズルの先端にあるセンサー部をマックスレベル付近に合わせてください。※フレキシブルパイプは、小さなRで無理に曲げないでください。
- ④ スイッチをONにします。(緑ランプが供給ランプ、赤ランプが電源ランプ)
新しいフルードが供給され、適度な液面レベルで停止することを確認してください。(緑ランプ消灯)
※センサーは汚れないようにカバーを付けて保管してください、誤作動を起こすことがあります。
※作業初めは、センサーが液面を感知して供給が停止することを確認するまで、すぐにOFFにできるようにスイッチに指を掛けておいてください。
※車種によっては、リザーバータンク内の仕切板が高い位置にあり、液室によって均等に液面が上がらない物があります。(キャラバンなど)
その場合は、ノズルのセット位置をマックスレベルよりやや上にして、供給状態をよく確認してから作業に入ってください。
- ⑤ 作業終了後、リザーバータンクの液面がマックスレベルを超えている場合はスポットなどで吸い取ってください。